

轍 ～ わだち ～



学年目標 「当たり前前の質を高める！」

昔は14歳で立志 子どもからおとなへ

人間を年齢に分ける考えは文明の進歩にしたがって複雑になってきました。古くはおとな（自分で食料を手に入れ、また、結婚して子を産める者）と子どもの区別があるだけでした。昔は平均寿命が短いので、老人は例外的存在でしたし、体は一人前だが、親に食べさせてもらうなどという恵まれた生活（現代の青少年層）は許されなかったからです。

そして、このようなおとな・子どもの区分は、どの民族にも共通して14歳頃だったようです。人間の生理的な発育の仕方から考えても、最もうなずけることです。

日本人の生活史をたどってみますと、男がフンドシを締め、女性が腰巻きを付け始めるのが14歳頃、そして、よく知られている武士の成人式、元服も14歳前後に行われていました。

時代劇などの芝居で若者が着物の裾をまくって「何を言ってやがるんだい」と肩をいからす場面がありますが、あれはわざと着物の中を見せてフンドシをちらつかせ「これを見ろ。俺はもう一人前の大人だぞ。」と突っ張っているところだそうです。

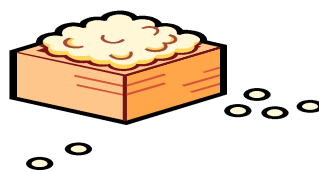
現代社会では、18歳から成人とみなされますが、私が中学2年生の頃は「立志式」という立派な式があり、そこで「こんな大人になりたい」「こんな仕事に就きたい」という思いを全体の前で発表しました。

現在はそういった儀式は無くなりましたが、この14歳という時期を大切にしたいと思います。特に意識してほしいのは心の問題です。思春期のこの時期には、自分の長所や短所、強さや弱さが分かってきます。友達と比べて自分が立派に見えたり逆にみじめに見えたりします。このようにうぬぼれと劣等感が交互におとずれる14歳頃の心の動きやこの時期を、「激動期」とか「第二の誕生」とも呼んでいます。

自分を見つめ、自分を知り、時には自分を励まし切り開いていく人生、、、。14歳の生徒にとって本物の人生は今がスタートと言っていると思います。

世の中には様々な青春があります。いろいろな青春があっていると思います。しかし、「どうせ自分は」と自分の可能性にふたをしてしまう人生だけはしてほしくありません。わからない時や困った時は人生経験の豊富なおとなに頼るのも一つの策だと思います。

*今回は生徒の皆さんにも読んでほしい学年通信です。



10日(木)	短縮日課	5時間授業	部活なし
11日(金)	建国記念の日		
16日(水)	短縮日課	5時間授業	スクールカウンセラー青山先生来校日 部活なし
21日(月)	生徒会専門委員会		
22日(火)	PTA総会(書面) *この日に進路学習会を行う予定です。(生徒のみ)		
23日(水)	天皇誕生日		
24日(木)	学年末テスト(1・2年生)		
25日(金)	城南中1・2年生龍ヶ崎中見学会		
28日(月)	短縮日課		